

国際ロータリー第2570地区

# 行田ロータリークラブ

RI会長：カール・ヴィルヘルム・ステンハマー / ガバナー：野中 弘之

会長：内山俊夫 / 幹事：山本憲作

例会日：木曜日

午後12時30分開会

クラブ会報委員会

会 場：アドバンテスト

委員長：境野登章 / 副委員長：廣川和夫

委 員：島田修、鈴木貴大、田中敏男

石渡健司、小菅克祥、廣世雅昭

行田クラブハウス

2005～06 国際ロータリーのテーマ  
「超我の奉仕」



SERVICE Above Self

第1948回 夜間例会 (11月24日)

## 会長挨拶 内山俊夫 会長



皆さん、こんばんは。

11月20日(日)、サッカー行田ロータリーカップの開会式に参加いたしました。第14回行田市内サッカースポーツ少年団15チーム余りが参加して開催されました。元気な小学生が北風の中でロータリーのカップ獲得を目指し、検討しておりました。

今月はロータリー財団月間であります。

### ◎11月 ロータリー財団月間

(The Rotary Foundation Month)

RI理事会と管理委員会は、毎年11月はこの月間を遵守すること、月間中、クラブは少なくとも1つのクラブ・プログラムを財団のために実施することを決定しました。

月間中はロータリー財団補助金受領者その他(例えばロータリー財団国際親善奨学生など)が、クラブ例会や教育機関や地域社会の会合で、ロータリー財団について講演するよう示唆されています。

財団の奨学金事業、および人道的諸事業についての知識と理解を深め、財団の推進に役立つプログラムを実施してください。

奉仕の理想について、公式名簿に「ロータリー・クラブは場所を問わず一つの基本的理想を持っている。それは奉仕の理想で、他の人々を思いやり、他の人々の役に立つことである」とあります。

また、「奉仕の一世紀、国際ロータリー物語」で「奉仕の理想は人々をつなぐ真の絆です。奉仕とは、

単によいことをするだけでなく、人々の役に立つことです。世界では人々が異なる言語を話し、異なる食事をし、異なる服を着て、異なる宗教を信奉しています。こうした人々を結び付けるには、強力な絆が必要です。ロータリーでは、その絆が超我の奉仕と言う理想なのです」と記されております。

そして、他の人々の役に立つ具体的な活動をしているのがロータリー財団です。

ロータリー財団の使命は、地域レベル、全国レベル、国際レベルの人道的、教育的、文化交流プログラムを通じて、ロータリーの綱領とロータリーの使命を遂行し、かつ世界理解と平和を達成しようとする国際ロータリーの努力を支援することです。

### ◎ロータリー財団の人道的補助金プログラム

1965年、ロータリー財団は世界中の恵まれない地域社会に活動の範囲を広げる、マッチング・グラント・プログラムを始めました。このプログラムは、2カ国以上のロータリー・クラブが関与する国際的な奉仕プロジェクトのために、ロータリー・クラブや地区から寄せられた寄付に対し、組み合わせ資金が付与されるものです。

それ以来、個人向け補助金、地区補助金、保健・飢餓追放および人間性尊重(3-H)補助金、およびブレン地域社会予防接種補助金などが加えられ、補助金プログラムが大きく広がりました。

各種の補助金が人道的プロジェクトに携わるロータリアンを支援しています。

### ◎ロータリー財団の教育プログラム

7カ国18名の「ロータリー・フェロー」が、外国留学のために自国を離れた1947年以来、ロータリー財団は、世界社会における理解と平和を築くために35,000名以上の国際親善奨学生を派遣してきました。

国際親善奨学金プログラムは、世界で最大規模の民間資金による国際的奨学金プログラムにまで成長しました。

この非公式な若い男女による「親善使節」は、奨学金として秀でているだけでなく、人道的ニーズを満たすという点でも優れています。

さらにこれらの奨学生たちは、国連やその他の国際的機関、政府大使館、多国籍企業において活躍を(次頁へつづく)

続けたり、また医師や教師、その他の専門職に就いて地域社会でより広い世界的視野を持つよう人々に影響を与えています。

### ◎ポリオ・プラスについて

1985年、ポリオによって残酷で死をもたらしかねない状況から世界中の子供たちを守るため、ロータリーはポリオ・プラス・プログラムを開始しました。

1988年、世界保健総会がポリオ撲滅を世界に呼びかけ、それ以来、ロータリーとそのパートナー団体（世界保健機関、国連児童基金、米国疾病予防管理センター、世界各国の政府）の努力によって、世界中のポリオ患者数の99パーセントの減少を成し遂げました。

ロータリアンは偉大な勝利を目前にしており、2005年のロータリー100周年に世界的なポリオ撲滅を祝うことを心待ちにしています。

### ◎毎年あなたも100ドルを

「毎年あなたも100ドルを」推進活動は、世界中のロータリアンに全面的にロータリー財団に参加することを奨励する、7つの促進計画から構成されています。

財団管理委員会と国際ロータリー理事会は、「毎年あなたも100ドルを」推進活動の目的が、以下の2点であることを確認しました。

当初1回目100ドルを寄付し、1000ドルに達するまで随時寄付をポール・ハリス準フェロー制度の事でした。現在1000ドルに達した後も、寄付を続けることと定義され「財団の友」と改訳されました。

- a. 毎年、真に世界に違いをもたらす財団の人的あるいは教育的プロジェクトに参加するよう、すべてのロータリアンに奨励する。
- b. 毎年、財団の年次プログラム基金に寄付するよう、すべてのロータリアンに奨励する。

すべてのロータリアンがこの機会にロータリー財団に参加し、財団の数々の素晴らしいプログラムの発展と持続をご支援くださることを願っています。

年次プログラム基金への「毎年あなたも100ドルを」の寛大な支援によって、紛争の解決、人権の擁護、疫病の撲滅、飢餓救済、子供や成人への教育を通じて、恵まれない地域社会を建て直すことができます。

11月のロータリーレートは1ドル112円ですが、12月からは118円となります。

年次寄付（ポールハリスフェロー）、または恒久寄付（ベネファクター）に寄付を頂ける事により、ロータリアンとしての奉仕に結びつくと思っております。皆様のご理解とご協力をお願い申しあげ次第です。

さて、本日は株式会社ミサトオフセット印刷、代表取締役 吉岡貞義様にお越しいただきました。

「感動の日々」というテーマに非常に興味をいただきます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

以上 会長報告と致します。

## 卓 話

### 「感謝の日々」

講師 吉岡貞義氏



皆さんこんばんは。

電車の中でも隣に座って頂ける方が少なく、相当満席にならないと座らないです。新幹線の中でも満席にもかかわらず、隣に座らず立って席を移動するぐらいです。そのぐらい世間をお騒がせしております。

今日は「感謝の日々」と言う事で、「一汁一画も他生の縁」と申しますけれども、この「縁」と言うのは五百生、五百回生まれ変わって、また巡り合う事になっている。

仏教では「臨席対面五百生」と言う、本来初めましてと言うのは変なんで、五百生前に一度お会いしているのです、お久しぶりです。

腹が立つ事ってありますね。電車の中で足を踏まれて、「御免なさい」と踏んだ方が言うと、こちらが良いですよと言いますが、踏んだ方が「御免なさい」と言わないと「ムカ」としますね。何で「踏んだんだ」と言うのと、相手も「売り言葉に買い言葉」で、そんな処に「足」を置いているから俺が踏んだんだとなります。

そのような時は、「五百生前」にその人の足を踏んだんだと思うと、許せます。

今日は「感謝の日々」と言う事で、感謝と申し上げましても、一概に「感謝」と言っても分かりづらい。感謝の中にも三つの要素が含まれていると思います。

一番最初は何か。「初心」、私たちは職業人として経営をやらせて頂いておりますけれども、その職に就く時、一番最初に仕事を教えてくれた方が必ずいる訳で、職親、職師という師匠おりました。そういうひとの「恩」と言う物を忘れてはいけない。これが「初心」です。

今は貨幣ができたおかげで、お金で品物を買います。ところがお金が無い時代、商いの原点は「物々交換」です。

山に住む人と海に住む人がそれぞれの幸を「物々交換」することに、お互いの喜びの中に商いがあったと思います。

家を一番最初に建てる人も、誰かが一番最初に住まいの様なものを建てたんですね。他の人たちは木（次頁へつづく）

の上や穴に住んでいて、同じような物を建てようと、その人にお願いをする。

タダで建ててもらふ訳にいかないから、その人は自分の得意とする事を提供して頼み、「やって喜び、もらって喜び」を感じ、これが商いの原点だったと思う。

お金が流通しだして、人は傲慢になった。お金を貰うときは嬉しいですが、支払うときは態度が大きくなる。何故でしょうか。

今まで紳士的だったのが、レストラン等に行くと水の持って来方が悪い・挨拶をしなかった、この店はどの様な教育をしているのだ！ ケチを付ける。ここが私は間違いだと思う。頂くときに喜んで、嬉しかったら出す。出す時も喜んで出さなければいけないと思う。

世の中は出すものが「先」です。呼吸もそうですね、「吐いて吸う」。だから「呼吸」と書きます。

建物もそうですね、「出入口」と書き「入出口」とは絶対に書きません。何故か。ホテルは出す事が先ですよ、サービスが先ですよ、出すことが先で、頂くことは後です、と言う事で「出入口」と書いてある。

我々商売をやらせて頂いても、出納帳と言いますね。出して納めると書きます。

子供は息を吐いて「オギャー」と生まれてきます。死ぬ時には息をひき取りましたと言います。全てが出す事が先になります。

出すのも喜んで出す。「貰うときに嬉しかったら、出す時も喜んで出す」と言うのが「初心」だと思います。

又、大自然のリズムに自分を合わせる事も必要です。

松下幸之助さんが、「成功するには大自然のリズムに乗った人が成功する。大自然のリズムに乗れなかった人は成功できない」と言っていました。

自然のリズムに自分を合わせることの、重要性を言っています。太陽が一日一回昇り、地球の周りを回っているように、同じ時間に同じ場所、同じ事を繰り返し、電車でもバスでも必ずステーションがありますから、その場所しか乗れません。ではどの様な場所なのか。一日に一回、同じ場所で同じ時間、同じ事を繰り返す。これが「初心」を忘れないリズムを作り上げている。

もう一点、「恩」という物が有りますね。私たちは幾多の「恩」の中に生かされています。私たちは知識を身につけ、人様の前でお話が出来、話を聞けるということは「恩」がある訳で、学校で先生に教わった、親に友人に兄弟に、あるいは先輩に教わった、いろいろな「恩」がある訳で、そんな中でも、どうゆう「恩」が一番自分の中にあるか？ 職業を通して世の中に「奉仕」が出来る、立派な経営者は社会奉仕ですから、経営をやる事に寄って雇用を促し、税金を払い、これに寄って国が運営されて行く訳ですから、この様に「恩」を広げて行く事が必要です。

「恩」の深さの違いを認識し、親の前にいったら「子」になりきらなければならない。親が子供に小遣いをあげるのは親の威厳を保つためであり、それを「いつまでも子供じゃないから、いらぬよ」と断った経験のある方は、その時の親御さん顔を思い

出して頂くと良くわかります。本当に親は寂しい顔をします。

いつまでも子供じゃないんだからと言う人がいますが、実はいつまでも子供なんです。親子の関係は変わらない。死んだって子供なんです。

親が三歳のときの話をしたら自分が三歳の心持にならないと、親の気持ちを素直に聞けない。親が十歳の話をしている時は自分が十歳の気持ちになって聞かないといけない。それを、いつまでもいつまでも昔の事ばかり言ってというものだから、親がだんだん子供と会話をしなくなる。

親の前では子供になりきると言う事が大事なことである。

妻の前では夫になりきる事が必要。夫と妻の心が一つにならないと「ダメ」です。何故か。「大自然の法則」ですから。「大自然の法則」は対立、相反する「力」が一つに溶け合って、生成発展していく。陰と陽が必要、対立の原理となる。

妻に対して受ける・合わせる・認める・称える・忘れる事が必要。「忘れる」は大変難しい。瞬間的に忘れて引きずらないと言う事になります。

「合わせる」は簡単です。オオム返しに言えば良い。オオム返しに言うとは癒される。

「受ける」は会話の中で、はなしを受ける。

「認める」は妻の行動を理解してあげる。

「称える」は妻の行動を誉めてあげる。



三つ目は生命源。自分の命は何処から来たのか。

神武天皇が即位されてから2665年の現在が皇室の歴史であり、これが日本の歴史でもある。

私たちの両親の又両親とさか登って行くと、20代で100万人を超えてしまい、33代さか上ると何と一億二千万人となり、神武天皇のご両親の名前まで皇居に保存されている。こんな国は日本しか有りません。

私も、皆さんも歴史をたどって行くと皇室が本家になるのです。

妻と夫、あるいは子と親が喧嘩すること自体がおかしいのです。何故ならそれぞれのステージが違うからで、夫がいるステージと妻がいるステージ、子供がいるステージそれぞれが違うからで、領土侵害と言う事が有りますが、国に領土があり、領土を侵すと、たとえ大国のアメリカであろうと、小さい国であろうと、侵されたら反撃します。猫だって自分の縄張りを作ります。他の猫が入ってくると凄いいで反撃もします。犬も同じことがいえます。

(次頁へつづく)

この様に、生き物は全部自分の領域・領土を持っている。それは妻も持っているし、夫も持っています。なぜ夫婦が喧嘩をするのかといえば、領土を侵害するからで、妻の領域に夫が入りこみ、夫の領域に妻が入り込むからで、あるいは親が子供の領域に足を踏み入れる。だから子供が反発する。だから境界線ギリギリのところまで話をすれば、争いもなくなります。それぞれが、それぞれの領土があると認識をすることが必要です。

妻に出された物にいちいち口出しするな、甘いだの・酸っぱいだの・しょっぱいだの、このようなことが領土侵害になり、だから食べなくて良いと言われてしまう。

目は見るもの、耳は聞くもの、神様は目は見るだけのために与えてくれ、耳は聞くだけのために与えてくれました。それを家に帰って「汚い」で終わらしておけばいいものを、小言を言ってしまう。妻への領土侵害で、見るだけで抑えておけば良い。余計なことは言う必要はない。耳は聞くもの・目は見るものと自分で意識する事が必要です。

自分の生命、地球上に生命（微生物）が誕生したのが35億年前で、それが進化して人間になったと言われている。

私たちの命は35億年もさか上り、永遠に「徳」の流れで繋がっている。先祖が一人でも「悪」を働くと、そこで「命」を絶たれる。私たちの命は35億年もずっと「徳」済みの最終ランナーです。

この事を私たちは、子・孫に伝えていかなければならないし、信じこませないといけない。そうすると驕りもなければ、卑下することもない。

私たちは先祖の「徳」の流れで今、命を生かされている。私たちは「感謝の積み重ね、徳の積み重ね」を、今度、子供に・孫に伝えて行かなければならない。その様な命の尊さ・命の重さを理解できた人間だけが、人の命の尊さが分かる。人を傷つけたり、殺したりする人は命の尊さが分からない人である。

それと同時に、存在している物には使命と価値がある。特に今、人間は35億年のDNAですよ。日本人だけではない、世界の国々で命を継承してきている。だから世界は一つなんだといえる。

自分たちの命に対して重く感じ、それを命の遡源と言います。それと同時に「徳」の流れがあれば、「悪」の流れというものもある。だから私たちは「善」を積まなければ、子供の代に出てくる。「善には善を悪には悪」を「因果応報」、因があって果があり間違いの無い事である。

天を恐れると言う事を「子・孫」に伝えていかなければならない。

初心と恩と自分の命に繋がる大生命に、きちっと区別をつけて「恩・感謝」を私たちは意識しながら日々生きて行く事が大事であると思います。

徳川家康とニクソン大統領のトップリーダーの条件を述べています。狩猟民族と農耕民族の違いが良く分かります。

大将の戒め（徳川家康）に「一瞬一念・端的只今」とは、今の一瞬に心を向けることが大事です。端的只今は、この瞬間・瞬間を鋭く生きなければ人ではありませんよ、と諭しています。

私たちはどうして争うのでしょうか。「葉隠」の中で「武士道とは死ぬ事と見つけたり」、一瞬・一瞬に命を掛けてやっている、今しか生きられないんだと思うと人は争う事はない。明日生きられると保障がないのに、明日生きられると思っているから人と争うんです。

夫婦もそうでしょう。こうして出て来る時「今生の別れ」と思って妻と別れてくれば争うことはない。

「人間の最高欲」とは何かと言えば、人に良い人だと言われたいと思うのが人間の最高欲です。人にいい人だと思われたいという欲望なのです。

今日一日しか生きられないと区切りをつけて生きると、楽ではないでしょうか。仏教でも一大事とは「今日只今の事心なり」という。

徳川家康は素晴らしく、人と人の争いというのは、その欠点によって、欠点の衝突である。人との和合はその美点を触れ合う事によって生まれる、と言っている。

私たちは人の欠点が見えるでしょ。人の欠点しか見えない人はそれが欠点で、自分の欠点と人の欠点しか見えない人が衝突して争いになる。人の欠点が見えると言う事は、まさしく自分の欠点なのだと思うことが必要である。

朝礼の必要性。朝礼は是非行ってほしい。

朝礼の語源は、朝廷の尊から来ている。天皇様がお出ましの時、お公家さんが集まり今日一日の確認事項を天皇様から聞かせて頂き、それを政治の中に取り入れた。これが朝礼のルーツであり、日本の企業は取り入れて実行して頂きたい。

私の座右の銘が「聖翔」、完全を目指して飛び続けるという私の気概で私が作りました。お釈迦様の教えで「八聖道」から八羽の鳩が足元を飛びかい、完全を目指していますが人間は足元までしか行けない事を表しています。

会社の場所、お店の場所、この場所を嫌う人が良くいますが、経営者が嫌っている場所にお客が来るわけがない。自分の会社の場所は最高なんだと思込むことが大事である。この場所は日本広しといえども、いや世界広しといえども、こんないい場所はないのだと、トップリーダーが思込むことでお客さんが寄ってくる。

当社では「社心・協心」と呼んでいる。「社」は形ですから、どの様な「心」を入れるか。ここに書いてあるのは「八聖道」。お釈迦様の教えで八つの道です。

「社心」

1. 正しい物の見方
2. 正しい考え方
3. 正しい言葉の使い方
4. 正しい行い
5. 正しい生活
6. 正しい努力
7. 正しく反省
8. 正しい精神を統一すること

## 「協心」

- 始めの大切 (私は仕事を通して社会人としての責任と使命を果たします。)
- 中の大切 (私はお客様、お取引先に喜んで戴く万全の工夫で望みます。)
- 終わりの大切 (私は社会の理法に協調し、自然の摂理に調和します。)

これは創業社長、二代目社長、三代目社長のことが書いてある。そこに商売の中で大事な物を書きました。どんなに高い能力・技術があっても、提供者がいなければその能力を発揮できない。

経営理念とは何か。自分の思いです。どんなに素晴らしい言葉を並べても、自分の心が入っていないければ社員に訴える「力」にはならない。

どんな物でも良いから、自分の思いと言う物を入れていく。理念とは命ですから、企業の中に命が吹き込まれないでどうして企業経営が出来るのか。そこには当然、方針があります。また社員の心得があります。

地域に必要とされる会社を意識して取り組み、期待される会社創りが必要である。

親指一本と四本の指とが、いつも対立しているが、お茶を飲もうとする時にどの指でもかまわない。親指と相談した時に、たやすく目的は達せられるが、もし親指を除外したら他の指が総がかりでも、茶わんを持つことができないし、お茶を飲むにも不便である。

親指は短く背は低い、スタイルもおおいに悪い。節も一つ足りないようだ。しかし、親指を除外したら何もできなくなるのではないか、親指と腹を合わせたら何でもたやすくできるのだ。親指に相談せよ。親指の徳をいただき、親の真心に眼を開け、たとえ全世界が敵となっても親が最後の味方なのに、親を粗末にする馬鹿者と、大自然は指をもって教えている。

最後に、10年と有ります。石の上にも3年と有りますけれど、3年は子供でもやる。我々大人が決心したら10年はやって頂きたい。

一つの事を続けて10年も経てば、一つの事が出来上がる。一度決心した事を10年続かない様では何も出来ない。

どんな荒地でも10年耕せば、稲も実れば麦も実る。1年、2年で何が出来る。焦らず10年続けてみよう。きっと物になる。物になるか成らぬか、続くか続かないかできる。

有難うございました。終わります。



## ニコニコ報告

- ☆内山会長…昨日、愛妻と皆野の破風山637m頂上まで登山いたしました。紅葉が素晴らしく、おむすびがおいしかった！  
吉岡先生、本日は卓話ありがとうございます。
- ☆山本(憲)幹事…吉岡先生、本日はありがとうございます。
- ☆渡辺会員…吉岡先生、ご来講ありがとうございました。
- ☆黒淵会員…吉岡貞義様、卓話ありがとうございます。
- ☆永島会員…ものづくり大学、増淵交流会があります。12月9日(金)18時より。ご参加お願いします。
- ☆湯本会員…吉岡貞義様、本日は卓話ありがとうございます。  
本日は湯本ホテルご利用いただき、ありがとうございます。
- ☆小川会員…この度、褒賞をいただきました。ただただ、感謝の気持ちでいっぱいです。
- ☆森島会員…吉岡先生、卓話ありがとうございます。
- ☆田山会員…卓話ありがとうございます。
- ☆富田会員…吉岡様、本日はありがとうございます。

- ☆小池(利)会員…吉岡先生、ご苦労様です。  
今日はよろしく願いいたします。
- ☆坂本会員…吉岡先生、ご苦労様です。  
今日はよろしく願いいたします。
- ☆小沢会員…吉岡先生、ご苦労様です。  
今日はよろしく願いいたします。
- ☆福島会員…吉岡先生、ご苦労様です。  
今日はよろしく願いいたします。
- ☆武田会員…吉岡先生、ご苦労様です。  
今日はよろしく願いいたします。
- ☆古沢(勇)会員…吉岡様、卓話ありがとうございます。
- ☆清水(泰)会員…よろしく願いいたします。
- ☆鈴木(康)会員…吉岡様、卓話ありがとうございます。
- ☆古澤(憲)会員…吉岡様、卓話ありがとうございます。
- ☆小島会員…吉岡様、卓話ありがとうございます。
- ☆植田会員…吉岡様、卓話ありがとうございます。
- ☆廣川会員…吉岡様、卓話ありがとうございます。
- ☆境野会員…卓話ありがとうございます。
- ☆鈴木(貴)会員…卓話ありがとうございます。

合計¥30000